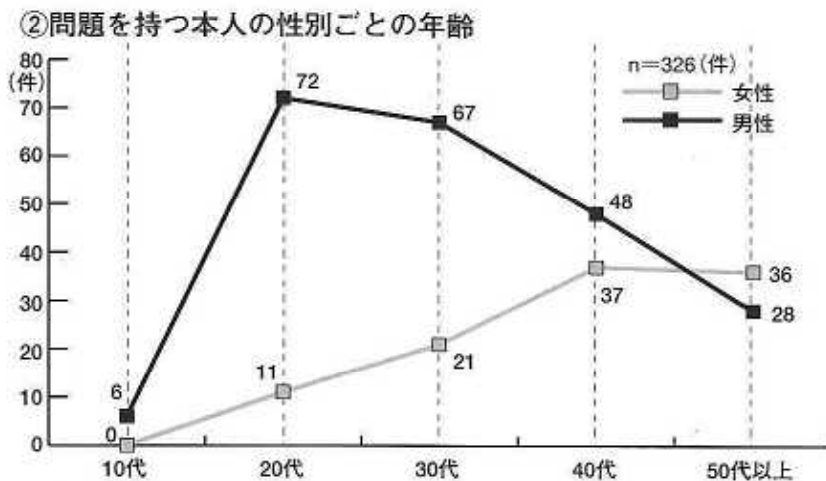
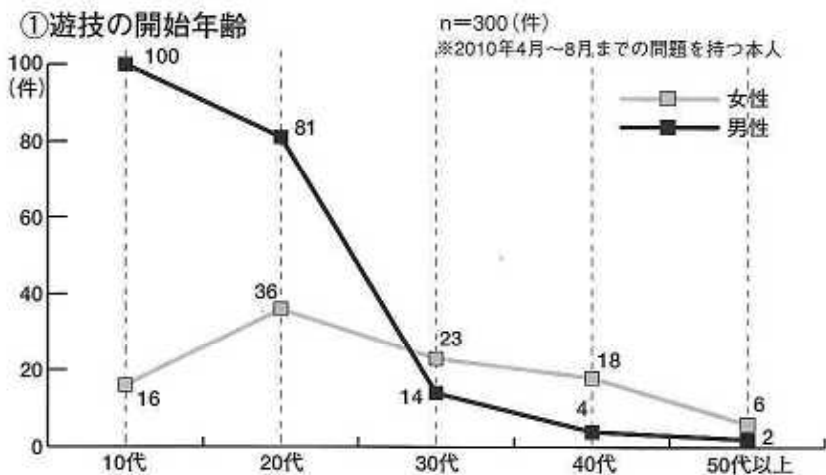


のめり込みの背景と理由、性別、年代別の一部を紹介

リカバリーサポート・ネットワークの機関誌「さくら通信」

全日遊連の第三者機関「ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN、西村直之代表理事)の月刊機関誌「さくら通信」41号(9月25日発行)が、遊技にのめり込んでいる理由と背景、相談員の対応方法について、問題を持つ本人の性別、年代別に、その一部を紹介した。それぞれの年代、性別で特徴が顕著に表れているので紹介したい。

左のグラフ①は今年4月から8月までに電話相談があった(問題を所持本人)300件(人)が、バチンコ、スロットを開始した年齢を示している。男性は10代が最も多く、次いで20代、30代と高齢になるほど減少し、10代から30代までが男性全体の97%を占めている。一方、



女性は20代が多いが、各年代にそれほど差は見られない。この男女の傾向から、男性は主に10代から20代で遊技を開始するが、女性はその年代からでも開始していることが分かる。

問題を持つ本人の性別ごとの相談年齢はグラフ②のとおりで、開始年齢の傾向と大きく異なる。男性の相談者は10代は最も少なく、20代から30代が最も多い。女性は高齢になるほど増加する傾向。

年代で「なんとなく」から「定年後の時間の使い方が分からない」までさまざま

相談内容は年代、性別によって変化する。抱えている問題も多岐多様だ。RSNが実際に受けた相談内容の一部を紹介されている。問題を持つ本人が10代男性の例では、のめり込み背景や理由

は「暇つぶしに友人と一緒に行くようになった」「特に理由もなくなんとなく」「大学入学を機に地元を離れ、時間を持て余している」。これに対する相談員の対応は、▽ばちんこ(遊技)をしない友人を作ることを提案、▽生活環境の見直しと改善の助言、▽行動パターンの改善の助言。

20代・30代男性の例では、背景や理由は「社会人となり自由に使えるお金と時間ができた」「職場や家庭でのストレス解消に「結婚後、独身時の感覚が忘れられず」」。対応は、▽適度に楽しめなくなったバチンコをやりに続けることへのリスク等を伝える、▽生活の改善や夫婦での話し合いを提案。

40代以上の男性では「仕事や家庭上のストレス解消に」「定年後の時間の使い方が分からない」。対応

貸金業法改正で「借りられない」と相談

「さくら通信」40号(8月25日発行)によれば、6月18日の貸金業法改正を受け「借りられない。何とかしてほしい」といった電話相談が増加中で、一方では「借りられないのでヤミ金に手を出すのでは」と不安を持つ家族の声もあるという。借金問題を解決することが当事

は、▽ストレスの原因を探し問題の解決方法を一緒に考える、▽相互援助グループ等に参加するなど新しい行動を始められるように一緒に考える。

同様に、問題を持つ本人が10代・20代女性の例では「付き合っているパートナーに連れられて」「子育てのストレス解消に」。▽自分でやる努力ができるように一緒に考える、▽ストレスを少しでも取り除けるように一緒に考える。

30代・40代女性では「子育てに手がからなくなり自由な時間が増えた」「仕事や家庭、育児のストレス解消に」。▽ばちんこへ行く頻度や金額等を一緒に整理する、▽1人で解決が難しい場合は相談できる機関を紹介する。

50代以上の女性では「孤独(ホーム)に行く」と知り合っている」「育児が終了し空いた時間を埋めるため」「定年した夫との時間を持つために」「参加するなど新しい行動を始められるように一緒に考える、▽これからの人生設計に目を向けるよう助言。

者の問題を解決すると誤解している本人、家族・友人が多いことを物語っている相談内容と言えよう。RSNでは「借金解決」問題解決ではないこと、そして借金の原因となつてはいるばちんこやギャンブルの問題に目を向けてもらえるよう、相談に応じています」とコメントしている。